

# 職員紹介



さたに てつお  
**佐谷 徹郎**  
外科・消化器科  
訪問診療

令和3年4月1日より着任いたしました佐谷徹郎と申します。昨年度までは週2回の外科外来・手術・内視鏡検査を担当していましたが、この度訪問診療科も担当させていただくこととなりました。通院がむずかしい患者様にも、より身近な存在として少しでもお役に立てればと考えております。



## ☆プロフィール

宮崎県出身で兵庫、滋賀、静岡、山口、千葉、茨城に住んでいたことがあります。平成11年杏林大学卒業後、杏林大学医学部附属病院、東京医科大学茨城医療センター、茨城県立中央病院などで勤務してまいりました。専門は消化器科・一般外科です。

## ☆休日の過ごし方

子供たちとスポーツをすることが多いです。(サッカー・野球等) 映画鑑賞 アクション・アドベンチャー・SF・歴史映画が好きです。

## ☆患者さんへのメッセージ

今まで経験したことのない新型コロナウイルス感染症下で、精神的にも体力的にも非常に厳しい時代になっています。体調を崩しやすい状況下におかれています。皆様が健康で、少しでもより安全・安心な生活が送れますよう努力してまいりたいと思います。よろしくお願ひ申し上げます。



のべ こういちろう  
**野邊 浩一郎**  
リハビリテーション科  
回復期病棟専従医

本年4月からリハビリテーション科の医師として着任いたしました、野邊浩一郎と申します。

昨年度まで3年程は、週1～2回勤務の非常勤として、主に回復期病棟でのリハビリテーション医療を担当しておりましたが、ご縁ありまして、このたび当院の回復期病棟専従医として病棟管理、リハビリテーション医療の一端を担う次第となりました。

聖マリアンナ医科大学を卒業後、杏林大学附属病院で初期臨床研修を修了し、その後は杏林大学附属病院リハビリテーション科で急性期病棟のリハビリテーション管理を行って参りました。また、そのうち1年間は大田区の山王リハビリ・クリニックで一般内科・整形外来と訪問診療を経験させていただき、地域医療・生活期医療の重要性を学びました。

リハビリテーション医学はさまざまな疾患・外傷・病態により生じた機能障害を回復し、残存した障害を克服しながら患者様の活動を育む医療です。歴史ある医学の中でも比較的に新しい分野ですが、超高齢化社会となった現在、リハビリテーション医学・医療の範囲は幅広くなっています。その重要性を再確認し、身の引き締まる思いでいます。私は病棟での勤務が主体となるため、回復期病棟入院中の患者様との接点は多いのですが、外来にお越しになった患者様との接点はなかなかありません。しかし陰ながら、地域に根ざした医療のご支援をさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。



(▼次ページに続く)